**「みんなで考えるキャアリア教育」【ロールプレイ　台本】　　R7.3.13（木）　三水小　6年生**

**【資料　１　場面】**

（Ｐさん）：今日はアンケート結果を見ながら「キャリア教育」について考えてみたいと思います。最初は「将

来やりたい（やってみたい）職業」の結果です。これを見ると県内の小学生は、70％以上の子どもが

「ある」と回答しています。三水小学校６年生のみなさんは８０パーセント以上の人が「ある」と回答し

ています。合わせて「やってみたい・やりたかった職業」も見てみましょう。

（Ａさん）：県内の小学生は、スポーツ選手やお医者さん、看護師さんが人気の職業のようです。YouTuberや

IT関係の仕事も人気で、昔はなかった職業です。ケーキ屋さんやパティシエも人気があるようです。

さて、三水小学校６年生のみなさんは、どんな結果でしょう。画家やイラストレーター、Vtuber（ブイチ

ューバー）といった仕事が人気です。ブイチューバーという仕事は、聞いたことがない人もいると思い

ます。バーチャルチューバーの略で、コンピューターを使ったアニメの動画をつくる仕事だそうです。機

械、エンジニア、ＩＴ関係のしごとや料理、食べることに関する仕事に人気があるようです。⑩の空港

関係では、キャビンアテンダント、グランドスタッフといった仕事が上がっています。「キャビンアテンダ

ント」は、飛行機に乗って、機内でお客さんのために仕事をする人のことです。「グランドスタッフ」は、

飛行機の乗らないで、空港の中でお客さんのために仕事をする人のことです。飛行機の整備をした

り、航空チケットを売ったり、お土産屋さんやレストランの仕事もあります。

（Ｄさん）：小学生はどんな仕事の種類があるのかよく知らないと思っていましたが、予想以上にいろいろな仕

事を知っていてびっくりしました。おそらく、中学生になると経験や知識が増えるし、インターネットなど

の影響もあるので、中学生になったら、もっといろいろな仕事に興味をもちそうだと思いました。

（Ｐさん）：お家の方々が子どもの頃にやってみたいと思った仕事のアンケート結果もあります。幼稚園や学校の

先生やお医者さん、美容師、ケーキ屋さん、スポーツ選手等が多く、やってみたい職業の種類は少な

い結果でした。

（Ａさん）：昔は周りの大人やテレビくらいしか情報源がなかったですよね。どんな職業があるのか、あまり関

心がなかったようにも思います。

（Ｐさん）：次は「どんな職業があるか知りたい？」の回答です。全学年で80％を超えていますね。

（Ｄさん）：三水小学校６年生の90％以上に驚きました！みなさんは、こんなに仕事についての関心が高かった

んですね。

（Ａさん）：小学校ではキャリア教育の一環として、保護者や地域の方によるお仕事体験など行う学校が増

えています。中学校では「職場体験」と言って、会社や工場、お店に行って、見学するだけではなく実

際に仕事をしてきます。事前に体験先の会社の人と電話で打ち合わせをする所から生徒自身でやっ

ている学校もありますよ。

（Ｃさん）：私は先生に電話のマナーや言葉づかいをおしえてもらい、いっしょに「たいけん」に行く友だちときん

ちょうしながら電話をかけました。ちがう「しょくば」に行った友だちから話を聞いて、もっといろいろな

仕事を知りたくなりました。

（Ｄさん）：私たちが子どもの頃には「職場体験」はなかったです。小学校の頃に社会見学で工場や役所に行

った記憶はありますが。我が子がうらやましい！

（Ａさん）：昔と比べると学校の様子はずいぶん変わってきていますね。受験でも、高校に特色のある学科が

増えていて、自分の将来、進学や就職をより具体的に考えるようになっています。

（Ｐさん）：受験に関係して、次のアンケートを見てください。自分がやりたい職業に必要な勉強について、高

学年と中学生に聞いた結果です。三水小学校６年生は、全員が自分がやりたい仕事にどんな勉強

が必要か知りたいようです。将来の自分のことをしっかり考えている６年生で、立派だなと思います。

（Ｃさん）：今、私は中学２年生で、高校じゅけんについて考えはじめたところです。やりたいことや、とくいなこ

とがある友だちは、せんもんがっかのある高校に行きたい！と言っていますが、私はそこまで決まっ

ていません。自分が何をしたいのか何がとくいなのか、まだわからないんです。

（Ａさん）：中学２年生で、自分の将来の姿をはっきり持っている人の方が少ないですよ。好きなことや得意な

ことを見つけるために、より広い世界を学んでみたらどうかな？受験校を選ぶときは普通科や総

合学科が適していると思います。高校の３年間で自分のことが見えてきたら、就職するのか更に

進学して勉強を続けるのか、ゆっくり決めればいいのではないかな？

（Ｄさん）：保護者世代の受験といえば、受かればどこでもいい！とにかく上の学校へ！という風潮でした。私

も大学へ進学したものの就きたい職業も特になかったので、就職活動でとても苦労しました。うち

の子どもはまだ小学生ですが、進路を考えるときにどのようなアドバイスをしたらいいのか悩みま

す。

（Ｐさん）：保護者アンケートによると、高校から大学・専門学校など在学中に最初の進路を意識している人

が８割以上を占めています。小学生の頃から決めていたという人もいれば大学を卒業しても就職

せず、アルバイトをしながら自分のやりたいことを見つけたという人もいました。「ご自身が小学

生・中学生の頃にキャリア教育を受けていたら、その後の進路が変わっていたと思いますか？」と

いう質問では６割以上７割近くの人が「思う」と回答しています。

（Ｃさん）：７わりも！　おとながそんなふうに思っているのは、いがいでした。私の親もそうなのかな？

（Ａさん）：お家の方が子どもの頃は、「キャリア教育」という学習はありませんでした。お家のかたと、ぜひ「キャ

リア教育」や「仕事」について、聞いてみてください！何気ない会話から思わぬ発見があるかもしれま

せん。

※（Ｐさん）：ここまでを振り返って、感想を聞く。

【資料　２　場面】

（Ｐさん）：ここで家族と関連するアンケート結果を見てみましょう。お家の仕事について、三水小６年生のみなさ

んは全員が知っていると答えています。県内の小学生では、知らない子どもが少しいるようです。会

社の名前は知っていても仕事内容までは知らない子どもがいるようです。

（Ｃさん）：小学校のじゅぎょうで「おうちの人のお仕事調べ」をしました。家族がつとめている会社は知って

いましたが、どんな仕事をしているかはその学習で調べるまで知りませんでした。そのころは、ただ

調べただけでしたが、しょくばたいけんでいろいろな仕事を知り、けいけんしたおかげで家族の仕

事が、より、ぐたいてきに見えてきたと思います。自分の家族もたいへんなことを毎日やってるんだ

な～と。今なら、より深く、話を聞けそうな気がしますが、さいきんは何か聞いても「勉強しろ！」と言

われるだけなので、つい会話をさけてしまいます。

（Ｄさん）：「勉強しろ！」は、つい言ってしまいますね。私も気を付けないと。

（Ｐさん）：家族について、もう一つアンケート結果があります。お家の人と自分の将来の事や仕事について話す

ことはありますか？県内の小学生では３人に１人が家の人と自分の将来について話したことがないと

回答しています。三水小学校６年生は、なんと、2人に1人ぐらい、お家の人と話したことがないとい

う結果です。先ほどのアンケートで、将来の仕事について興味のある人が多く、どんな仕事があるか

についても知りたい人が多いのに意外な結果です。我が家では、子どもが小さいころから日常会話

の中で「しごと」が話題に上がっているので、もっとたくさんの人が、話をしていると思いました。この

結果について、お家の方の感想をお聞きしたいです。

（Ｂさん）：ぼくは「あんな仕事をしてみたいな」「この仕事はおもしろそうだな」と思うことはあるけど、お父さ

んやお母さんとちゃんと話したことはありません。やりたいことはたくさんあるし、楽しそうなことはど

んどん、ふえていくから。

（Ｄさん）：そうだよね。私も小学生の頃の夢はサッカー選手だったし、電車が大好きで新幹線の運転士にな

りたい！と思ったこともあったなあ。でも子どもの頃の夢と現実の自分の進路は別の物と考えてい

たから、受験や就職活動で意識することはなかったです。夢を叶えられるのは特別な人だけだと

思っていたしね。

（Ｂさん）：ぼくはずっとスイミングにかよっていて、泳ぐのが大好きだけど、ぼくより、はやい子がおおぜいて

どうしても１位になれない。ずっと１位の子はオリンピックに行けるかもしれないけど、ぼくは、むりだ

と思う。オリンピックせんしゅのほかに、水泳かんけいの仕事はあるのかなあ？

（Ａさん）：確かにオリンピック選手になるのは簡単ではないですね。でも絶対に無理だと今から諦めてしま

うのはもったいないよ。中学や高校へ行ってから才能が開花する人だってたくさんいます。たとえオ

リンピック選手になれなくても、水泳を続けていればオリンピック選手を育てるコーチになれるかも

しれない。速く泳げる水着を開発したり、快適に泳げるプールを造る仕事だって、自分の経験を活

かせると思いますよ。

（Ｂさん）：へぇ～！そんな仕事があるなんて、しらなかった！しらないだけで、おもしろそうな仕事はまだたくさ

んありそう。好きな水泳が、せんしゅになるいがいでも、しょうらいのやくに立つなら、がんばって、こ

れからも続けよう。

（Ａさん）：ぜひ続けてください。無駄になることなんて一つもないですから！みんなが知らない仕事はまだま

だたくさんありますよ。ちょっと考えただけで、選手以外にもこれだけ水泳に関連した仕事が思い

浮かびます。これは私が学校の勉強や教師という仕事をしてきたことに加えて、それ以外の学び

や経験を通して得られた知識です。好きなことをとことんやると、そこから広がる世界があります。

（Ｄさん）：好きなことをとことんやる！そこから世界が広がる！本当ですね。それもキャリア教育なんですね。

私も子どもの好きなことをちゃんと聞いて、そういうアドバイスをしてあげよう。

（Ｐさん）：ほんの少しの意識の違いで、身の回りのことがキャリア教育に繋がりそうですね。

（Ａさん）：大人は自身の経験からつい先回りして口を出してしまいがちですが、子どもの「好き」や「学びた

い」という欲求の妨げにならないよう、ほどほどにしないといけませんね。

（Ｃさん）：すきなことが見つからない私は、まずは「知る」ところからはじめようかな。

（Ａさん）：長野県や企業で行われている小中学生向けの体験プログラムなどを活用してみたらどうかな？

いきなり習い事を始めるより気軽に参加できますよ。　　　　　　　　　　～（Pさん）：振り返り

【資料　３　場面】

（Ｐさん）：家庭でできるキャリア教育があれば教えていただきたいという声があります。アンケートではこの

ような結果になりました。

（Ｄさん）：家で仕事について話をしたり、習い事に通うのはわかりますが、お手伝いもキャリア教育につながる

んですか？

（Ａさん）：つながりますよ！家族の中で自分の役割を決めて行うことは一番身近なキャリア教育です。キャリ

　　　　　　　　ア教育がよい就職先を見つけるためのものと思っている人が多いと思いますが、そうではありませ

ん。一人一人が「自立」して生きていくために、日々、いろいろな学習や経験、体験を積み重ねていく

ものなんです。

（Ｃさん）：自立（じりつ）とはどういうことですか？じぶんでお金をかせいで一人で生活すること？

（Ａさん）：それは「自活」といって少し意味合いが違いますね。ここで言う「自立」とは自分自身で決断して

行動することです。例え就職してお給料を貰っていても、仕事以外のことを全て家族任せにしてい

たら、それは自立とはいえません。Ｃさんは家でどのように過ごしていますか？親に言われるまえに

自分で動いてる？

（Ｃさん）：勉強は、自分で決めた時間になったら、へやに行ってやります。でも、へやのそうじは、母にまかせ

っきりだし、朝も、おこしてもらっています。

（Ａさん）：勉強に関しては「自立」が進んでいるようですね！生活面では、まだ家族に甘えている部分が多

いのかな？中学生だからここまでやるという決まりはありませんが、家族と話し合って自分の責任

でやることを増やしていけばいいと思いますよ。

（Ｐさん）：進学や就職をして、生活や環境の変化についていけずに体調を崩す人が増えていると聞きます。

（Ａさん）：原因はいろいろあると思いますが、一つは「自立」が間に合わなかったのではないでしょうか。生

活面だけでなく、人との関わり方、学業や仕事との向き合い方、「自立」するにはさまざまな準備

や心構えが必要です。

（Ｄさん）：せっかく、進学や就職をしても、体調が理由で思い切り打ち込めなかったら悲しいですね。

（Ｃさん）：そんな話を聞いたら、きゅうに、ふあんになってきました。私、ひとりぐらしできるのかな･･･

（Ａさん）：大丈夫ですよ！みなさんが「自立」するための準備期間が今の学校で過ごす時間なんです。小学

生には小学生の、中学生には中学生の「自立」があって、その延長線上に将来の自分がいます。

何事も、ある日、急にできるようにはなりませんよね。

（Ｂさん）：まいにちのおふろそうじも、やらされてると思わないで、いつか自分のためになる、キャリア教育っ

て考えれば、たのしくできるかも！

（Ａさん）：「キャリアパスポート」についてのアンケート結果です。「キャリアパスポート」について、正しく知って

いる人は少ないようです。「知らない」というお友達もいます。「パスポート」とは、社会や世界で通用

する「身分証明書」と言われています。子どもたちの学習や体験、経験の積み重ねを残し、後から見

返せるように作っているのが「キャリアパスポート」です。途中で紛失しないよう進学時に学校から学

校へと受け渡しているので、お子さんのキャリアパスポートを目にしたことがない保護者もいると思い

ます。

（Ｐさん）：お家の人のアンケート結果です。「キャリアパスポート」はどういったものなのか？どのように活用する

か？半数以上が知らないという回答でした。私も知ってはいましたが、よくわかりません。

（Ａさん）：各学校によって運用方法は違いますが、高校まで持ち続けていきます。進路に悩んだときに読み

返して、自分自身を見つめ直す手助けになるのではないかと思います。

（Ｐさん）：みなさんと話をして、キャリア教育についての理解が進んだように思います。最後に、皆さんが今

日からどのようにキャリア教育に取り組んでいくか、聞かせてください。

（Ｂさん）：ぼくは、ゲームの時間としゅくだいの時間を自分で決めて、言われる前にできるようになりたいで

す。あと、気になることがあったら、それがどんな仕事につながっていくかな？というように考えて、

調べてみようと思います。

（Ｃさん）：私は、家ぞくが中学生だったころにもっていた、ふあんや、しっぱいしたことを聞いてみたいです。

自分が、なやんだときに、やくに立つと思うから。それからもう一度、家ぞくの仕事について、くわし

く聞きたいです。へやのそうじや、ほかのことも少しずつおぼえて「自立（じりつ）」できるようになり

たいです。

（Ｄさん）：まずは我が子の好きなことや興味のあることについて、ゆっくり話してみます。親の希望もあります

が、子どもの好きそうなものをさりげなく教えてあげようと思います。それと、親自身が人生楽しん

でいるんだぞ！という姿を見せたいですね。

（Ａさん）：それはいいですね！学校では、子どもたちが安心して学べる環境を整え、個人や家庭ではできな

い経験の場を提供していきます。家庭や地域と連携しながらキャリア教育を推進していきたいと、

改めて思いました。

（Pさん）：振り返りとまとめ

※参考資料



